endeavoured to serve science with impartiality.

これと同樣なことが他の地域で他の科學者によつて行はれたことも段々世界に明かになつて來ることであらう。（Nature の記事は濱田稔博士の御好意により讀むことを得た）。

○ヤマアヂサヰの一品　（津山　尙）

牧野先生の日本植物圖鑑のヤマアヂサヰの項目中に「又稀に重瓣（forma *plena* Makino）の者あり」とある。小生はこの傾向のものを 1935 年富士山麓西湖の北なる十二ケ岳の中腹で採集した。このものゝ裝飾花の花瓣狀の萼片は正常であるが，その上に密着して，長さがその半以下 2~4 mm 位の萼片が 5~7 枚互に多少重なり合ひながら集つてゐるものであつた。

○ヤマノイモを掘る方法　（津山　尙）

福島縣二本松及小野新町方面の話。秋から冬にかけて附近に多いヤマノイモ(自然生)を堀つて生業としてゐる人が多いが，何しろ廣い山の中に散らばつてあるので落葉後は探し出す迄に苦心が多い。そこで誰が初めたともなく夏の中に生えてゐる所を見つけて置いてその根元に大麥の種を播いて置く方法が案出された。後になつて出揃つた麥の芽を目當に成熟した芋を堀るためである。同地では何故か 5 月の節句にはこれを食べると長虫（蛔虫？）になると言つて避ける由である。尙トコロの鬚根の多い根莖を佛樣の草鞋に見立てゝお盆の供へものとする風習もあると言ふ。

○ゴヨウアケビの一新變種　（木村陽二郎）

牧野博士がゴヨウアケビ *Akebia pentaphylla* を 1902 年に始めて記載されたとき既に本種がアケビとミツバアケビとの雜種であろうと述べておられるようにゴヨウアケビの形態はいかにも兩種の組合せを思わすものがある。

アケビの葉が一般に小さく，小葉は五つで全縁なのに對しミツバアケビの葉は一般に大きく小葉は三個よりなり葉緣は波狀になつているがゴヨウアケビの葉は一般に大きく小葉は五個よりなり葉緣は波狀になつている。花をみてもアケビは花が大きく特に雌花は非常に大きくて雄花の總は短かく花の色は淡い。ミツバアケビは花が小さく雄花の總は長く花の色は濃いが，ゴヨウアケビは雄花はミツバアケビより大きいがアケビよりはずつと小さく，雄花の穗は長く花の色は濃い。

ゴヨウアケビはめずらしいものではなく處々に見出されるが私の知つているところでは大體の形質は殆ど一定している。アケビでも花の色に變化はあるがそう變つたものはない。ところが信州輕井澤千ケ瀧で觀察したアケビの一種類は葉は殆どアケビに變りがないが花はミツバアケビに甚だ似ている。そして雌花の梗は短くて軸から殆ど直角に出ている。この春の私の觀察によれば雌花はアケビでは垂れるのにミツバアケビでは花梗が太く短く花軸から殆ど垂直にでゝいる。いろいろな書物の圖ではこれがはつきりかいてないし乾燥標本では判然としない。ところによつてこの關係が違うものがあつたとき